



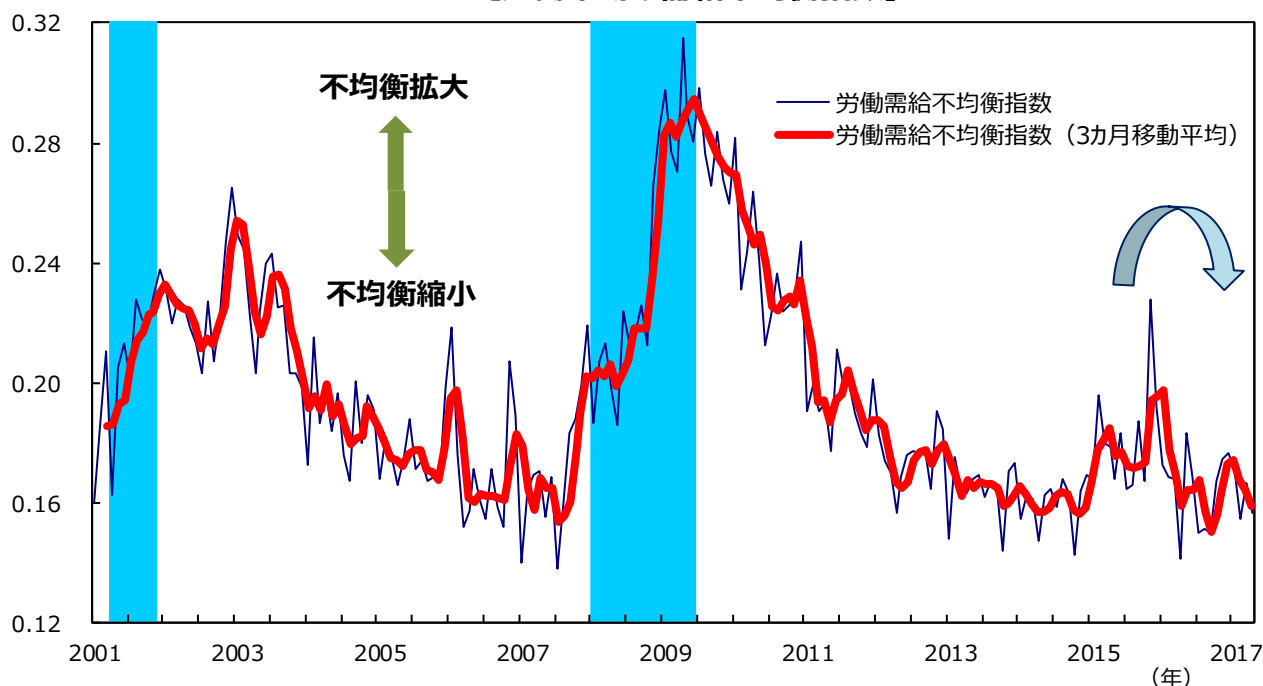
## Q 米国の景気拡大はいつまで続くの？ (1)

**A** 景気後退とは、労働市場や財市場で生じた需要と供給の不均衡を調整する局面ととらえることができます。この観点から米国の労働市場を見ると、求人数（労働需要）と求職数（労働供給）は概ね釣り合っています。2009年7月から始まった今回の景気拡大局面は2017年6月の時点で8年になりますが、景気後退に陥るのはまだ当分先のことになりそうです。

- 労働需給の不均衡の度合いを測る指標に、労働需給不均衡指数があります。この指数は企業の求人数と、職を求める労働者の数、つまり求職数のかい離の度合いを、指数で表したものです。
- 同指数が上昇に転換すると、その後景気は後退局面に入る可能性が高まりますが、足元では低い水準で推移しています。労働需要と供給との間に開きはなく、ほぼ一致していると見られます。

(ポイント)

【労働市場の需給不均衡指数】



(注) データは2001年1月～2017年4月。労働需給不均衡指数は、企業の欠員数と求人数とのかい離の度合いをみたもの。対象は米労働省分類による12業種（政府を含む）。かい離が大きいほど（不均衡指数が上方へいく）ほど、労働需給の不均衡が広がっていることを示す。

(出所) 米国労働省および商務省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。